

調査結果の概要

※令和2年度集計結果については、成長著しい時期において測定時期を異にしたデータを集計したものと
なっており、参考までに比較の数値を掲載したが、単純比較することはできない。

I 発育状態

1 身長（表1、図1）

- (1) 令和2年度の男子の身長は、11歳で前年度と同値、5歳から9歳及び12歳から16歳で前年度より
高くなっている。また、10歳及び17歳では、前年度より低くなっている。

女子の身長は5歳から12歳で前年度より高くなっている。また、13歳から17歳で前年度より
低くなっている。

- (2) 令和2年度の身長を親の世代(30年前の平成2年度の数値)と比較すると、最も差がある年齢
は、男子では12歳で3.4cm高く、女子では10歳で1.5cm高くなっている。

表1 年齢別 身長の平均値

単位:cm

区分		男子					女子				
		令和2年度 A	令和元年度 B	前年度差 A-B	平成2年度 C(親の世代)	世代間差 A-C	令和2年度 A	令和元年度 B	前年度差 A-B	平成2年度 C(親の世代)	世代間差 A-C
幼稚園	5歳	112.6	111.0	1.6	111.7	0.9	111.5	110.6	0.9	110.8	0.7
小学校	6歳	117.6	116.8	0.8	117.4	0.2	116.4	116.0	0.4	116.3	0.1
	7歳	123.6	122.8	0.8	122.7	0.9	123.3	121.9	1.4	122.4	0.9
	8歳	128.9	128.1	0.8	128.2	0.7	128.1	127.7	0.4	127.9	0.2
	9歳	134.7	133.6	1.1	134.2	0.5	134.8	133.9	0.9	134.2	0.6
	10歳	139.6	139.8	△ 0.2	139.1	0.5	141.5	140.9	0.6	140.0	1.5
	11歳	146.1	146.1	0.0	144.7	1.4	148.5	146.7	1.8	147.5	1.0
中学校	12歳	155.1	153.6	1.5	151.7	3.4	152.8	152.1	0.7	152.3	0.5
	13歳	162.2	160.2	2.0	159.4	2.8	155.2	155.6	△ 0.4	155.3	△ 0.1
	14歳	166.6	166.0	0.6	165.4	1.2	157.1	157.2	△ 0.1	157.3	△ 0.2
高等学校	15歳	169.7	168.2	1.5	168.6	1.1	157.6	157.8	△ 0.2	157.8	△ 0.2
	16歳	170.5	170.2	0.3	170.2	0.3	158.1	158.4	△ 0.3	158.3	△ 0.2
	17歳	171.4	171.5	△ 0.1	170.7	0.7	158.2	158.8	△ 0.6	158.7	△ 0.5

(注) 年齢は、各年4月1日現在の満年齢である。以下の各表について同じ。

図1 身長の平均値の推移(1-1)

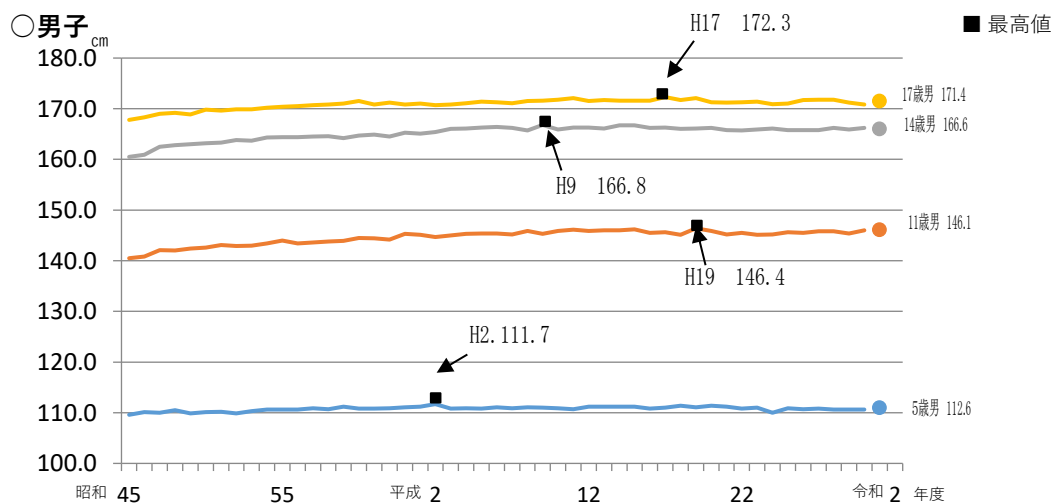
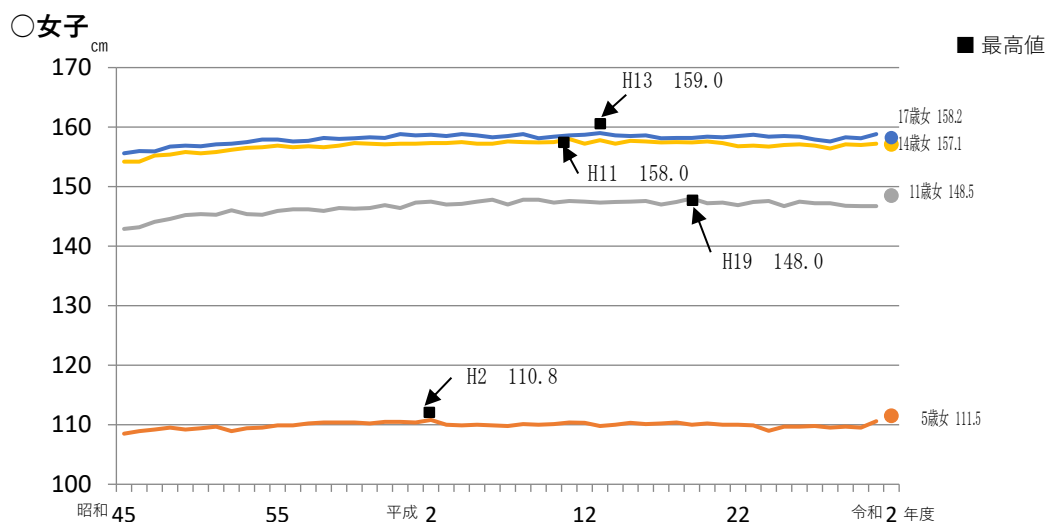


図1 身長の平均値の推移(1-2)



2 体重 (表2、図2)

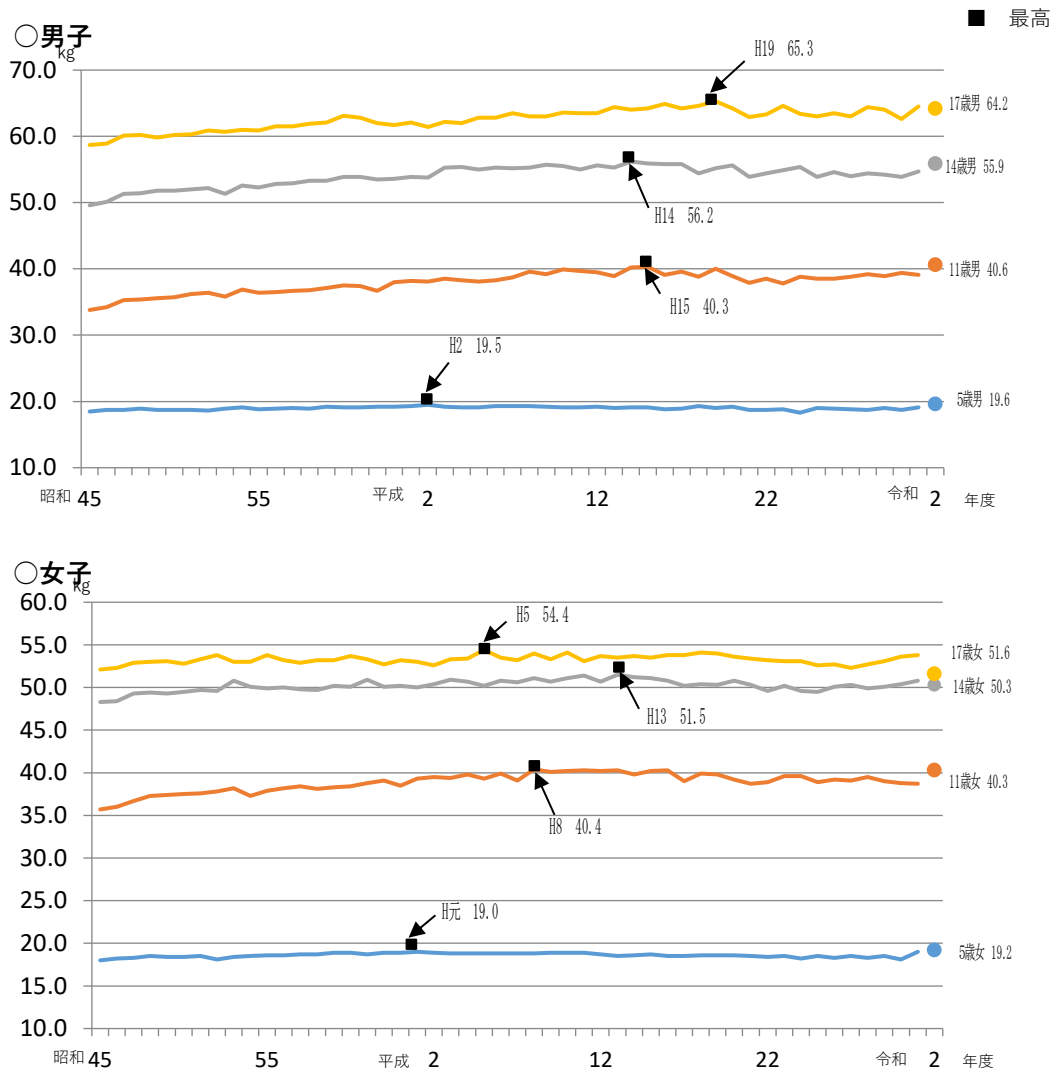
- (1) 令和2年度の男子の体重は、5歳から9歳、11歳から15歳で前年度より増加している。また、10歳、16歳、17歳で前年度より減少している。
- 女子の体重は、5歳から12歳で前年度より増加している。また、13歳から17歳で、前年度より減少している。
- (2) 令和2年度の体重を親の世代(30年前の平成2年度の数値)と比較すると、最も差がある年齢は、男子では17歳で2.8kg重くなっており、女子では12歳で1.0kg重く、17歳で1.0kg軽くなっている。

表2 年齢別 体重の平均値

単位: kg

区分		男子					女子				
		令和2年度 A	令和元年度 B	前年度差 A-B	平成2年度 C(親の世代)	世代間差 A-C	令和2年度 A	令和元年度 B	前年度差 A-B	平成2年度 C(親の世代)	世代間差 A-C
幼稚園	5歳	19.6	19.1	0.5	19.5	0.1	19.2	19.0	0.2	18.9	0.3
小学校	6歳	21.7	21.5	0.2	21.8	△ 0.1	21.2	20.9	0.3	21.1	0.1
	7歳	24.8	24.3	0.5	24.0	0.8	24.4	23.5	0.9	24.0	0.4
	8歳	27.8	26.9	0.9	27.0	0.8	27.1	26.8	0.3	26.6	0.5
	9歳	32.0	30.5	1.5	31.1	0.9	30.9	30.3	0.6	30.2	0.7
	10歳	35.0	35.1	△ 0.1	34.1	0.9	35.1	34.6	0.5	34.2	0.9
	11歳	40.6	39.1	1.5	38.1	2.5	40.3	38.7	1.6	39.5	0.8
中学校	12歳	46.0	45.0	1.0	43.4	2.6	44.7	43.8	0.9	43.7	1.0
	13歳	51.4	48.8	2.6	49.2	2.2	47.5	47.7	△ 0.2	47.3	0.2
	14歳	55.9	54.7	1.2	53.8	2.1	50.3	50.8	△ 0.5	50.4	△ 0.1
高等学校	15歳	59.6	59.5	0.1	59.1	0.5	51.4	52.7	△ 1.3	52.0	△ 0.6
	16歳	61.3	61.7	△ 0.4	60.4	0.9	52.6	53.3	△ 0.7	53.2	△ 0.6
	17歳	64.2	64.5	△ 0.3	61.4	2.8	51.6	53.8	△ 2.2	52.6	△ 1.0

図2 体重の平均値の推移



3 平均体格（表3、図3、別表1）

令和2年度の幼稚園、小学校、中学校及び高等学校における幼児、児童及び生徒の身長及び体重の平均値を年齢別、男女別にみると次のとおりである。

表3 体格の平均値と男女差

区 分		身 長 (cm)			体 重 (kg)		
		男子 A	女子 B	差 A-B	男子 A	女子 B	差 A-B
幼稚園	5歳	112.6	111.5	1.1	19.6	19.2	0.4
小学校	6歳	117.6	116.4	1.2	21.7	21.2	0.5
	7歳	123.6	123.3	0.3	24.8	24.4	0.4
	8歳	128.9	128.1	0.8	27.8	27.1	0.7
	9歳	134.7	134.8	△ 0.1	32.0	30.9	1.1
	10歳	139.6	141.5	△ 1.9	35.0	35.1	△ 0.1
	11歳	146.1	148.5	△ 2.4	40.6	40.3	0.3
中学校	12歳	155.1	152.8	2.3	46.0	44.7	1.3
	13歳	162.2	155.2	7.0	51.4	47.5	3.9
	14歳	166.6	157.1	9.5	55.9	50.3	5.6
高等学校	15歳	169.7	157.6	12.1	59.6	51.4	8.2
	16歳	170.5	158.1	12.4	61.3	52.6	8.7
	17歳	171.4	158.2	13.2	64.2	51.6	12.6

(1) 各年齢間の体格差

① 身長

男子は、11歳と12歳の間が9.0cmと最も大きく、15歳と16歳の間が0.8cmと最も小さい。女子は、10歳と11歳の間が7.0cmと最も大きく、16歳と17歳の間が0.1cmと最も小さい。

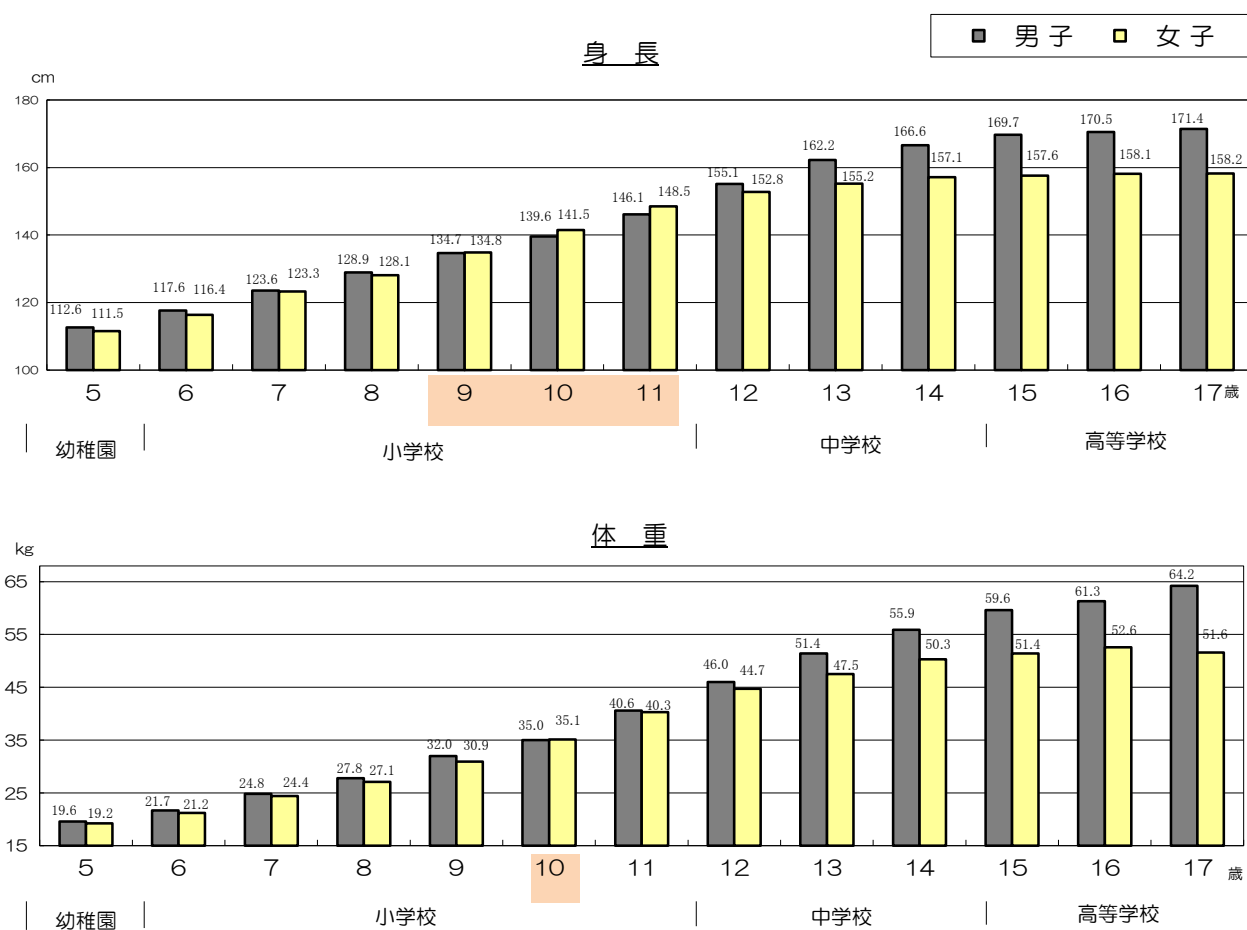
② 体重

男子は、10歳と11歳の間が5.6kgと最も大きく、15歳と16歳の間が1.7kgと最も小さい。女子は、10歳と11歳の間が5.2kgと最も大きく、16歳と17歳の間が1.0kgと最も小さい。

(2) 男女の体格差

女子が男子を上回る発育年齢は、身長では9歳から11歳で、その差の最大は、11歳の2.4cmとなっている。体重は、10歳を除く全ての年齢で男子が女子を上回り、17歳での差は、身長13.2cm、体重12.6kgとなっている。

図3 年齢別平均体格



4 世代間比較 30年前(平成2年度)の体格との比較 (表4、別表2)

子世代(令和2年度)と親の世代(30年前の平成2年度)の体格を比較してみると、男子は全ての身長、6歳を除く全ての体重、女子は5歳から12歳の身長、5歳から13歳までの体重が上回っている。

(1) 17歳(高校3年生)の体格の比較

17歳の体格を比較すると、30年前に比べて男子は身長が0.7cm高く、体重が2.8kg重くなっている。女子は身長が0.5cm低く、体重が1.0kg軽くなっている。

(2) 体格差の最も大きい年齢

30年前と比べ最も差の大きい年齢は、男子は、身長が12歳で3.4cm高く、体重が17歳で2.8kg重くなっている。女子は、身長が10歳で1.5cm高く、体重が12歳で1.0kg重く、17歳で1.0kg軽くなっている。

表4 30年前の体格との比較

区 分			身 長 (cm)			体 重 (kg)		
			令和 2年度 A	平成 2年度 B	差 A-B	令和 2年度 A	平成 2年度 B	差 A-B
男 子	幼 稚 園	5歳	112.6	111.7	0.9	19.6	19.5	0.1
		6歳	117.6	117.4	0.2	21.7	21.8	△ 0.1
	小 学 校	7歳	123.6	122.7	0.9	24.8	24.0	0.8
		8歳	128.9	128.2	0.7	27.8	27.0	0.8
		9歳	134.7	134.2	0.5	32.0	31.1	0.9
		10歳	139.6	139.1	0.5	35.0	34.1	0.9
		11歳	146.1	144.7	1.4	40.6	38.1	2.5
	中 学 校	12歳	155.1	151.7	3.4	46.0	43.4	2.6
		13歳	162.2	159.4	2.8	51.4	49.2	2.2
		14歳	166.6	165.4	1.2	55.9	53.8	2.1
	高 等 学 校	15歳	169.7	168.6	1.1	59.6	59.1	0.5
		16歳	170.5	170.2	0.3	61.3	60.4	0.9
		17歳	171.4	170.7	0.7	64.2	61.4	2.8
女 子	幼 稚 園	5歳	111.5	110.8	0.7	19.2	18.9	0.3
		6歳	116.4	116.3	0.1	21.2	21.1	0.1
	小 学 校	7歳	123.3	122.4	0.9	24.4	24.0	0.4
		8歳	128.1	127.9	0.2	27.1	26.6	0.5
		9歳	134.8	134.2	0.6	30.9	30.2	0.7
		10歳	141.5	140.0	1.5	35.1	34.2	0.9
		11歳	148.5	147.5	1.0	40.3	39.5	0.8
	中 学 校	12歳	152.8	152.3	0.5	44.7	43.7	1.0
		13歳	155.2	155.3	△ 0.1	47.5	47.3	0.2
		14歳	157.1	157.3	△ 0.2	50.3	50.4	△ 0.1
	高 等 学 校	15歳	157.6	157.8	△ 0.2	51.4	52.0	△ 0.6
		16歳	158.1	158.3	△ 0.2	52.6	53.2	△ 0.6
		17歳	158.2	158.7	△ 0.5	51.6	52.6	△ 1.0

5 発育量の世代間比較 30年前(平成2年度)との比較 (表5、図4、別表5)

5歳から17歳まで12年間の総発育量と年間発育量の最も大きい年齢について、子世代(今年度調査の17歳(平成14年度生まれ))と親世代(30年前調査の17歳(昭和47年度生まれ))を比較すると、次のとおりである。

(1) 総発育量の比較

今年度17歳(平成14年度生まれ)の総発育量を30年前と比較すると、身長では男子は0.4cm減、女子は1.3cm減となっている。体重では男子は2.5kg増、女子は1.2kg減となっている。

(2) 年間発育量の最も大きい年齢

今年度17歳(平成14年度生まれ)の年間発育量をみると、男子は、身長は11歳時、体重も11歳時で最も大きく、女子は、身長は10歳時、体重も10歳時が最も大きい。

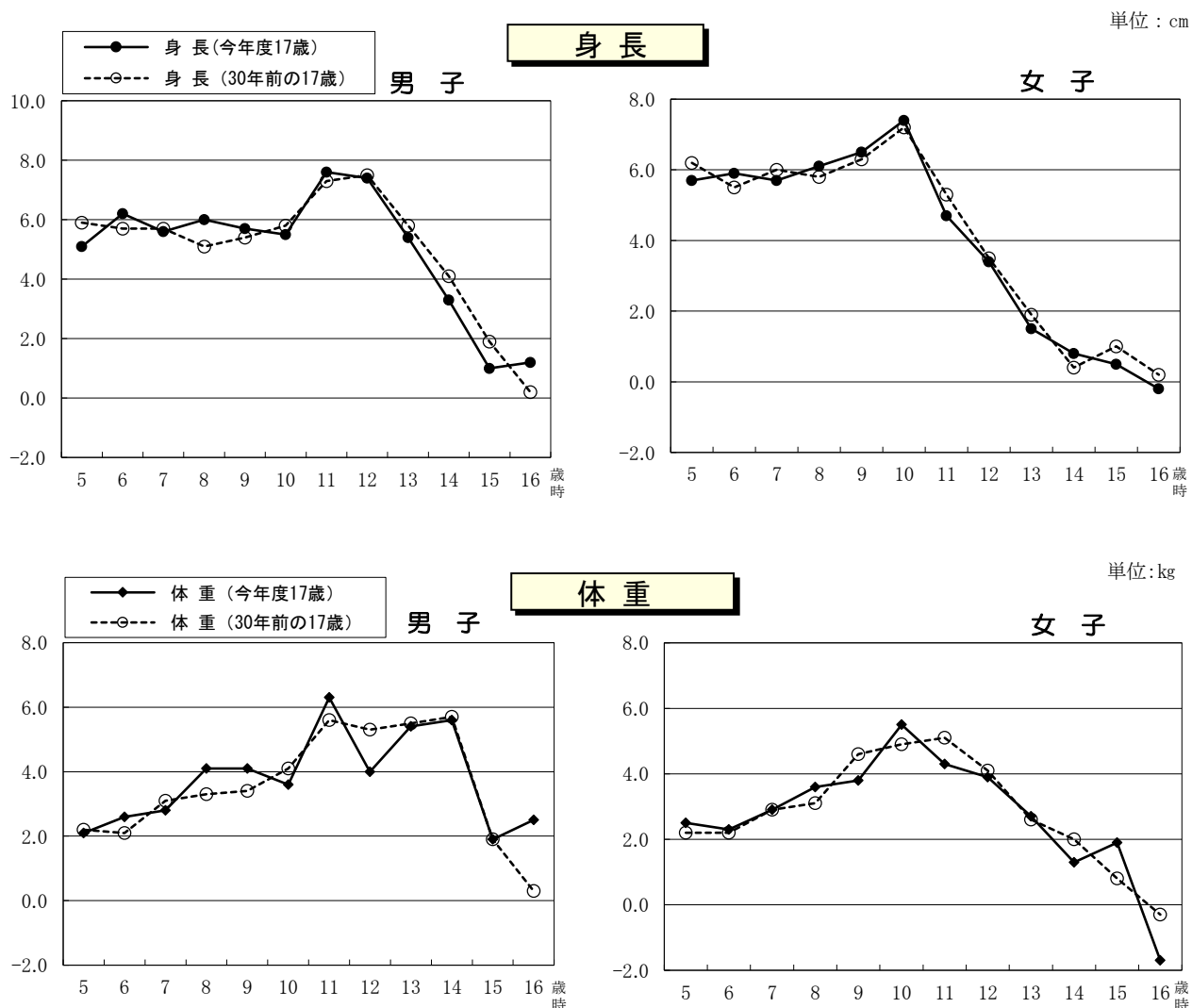
一方、30年前の17歳(昭和47年度生まれ)の年間発育量は、男子は身長は12歳時、体重は14歳時が最も大きく、女子は身長は10歳時、体重は11歳時が最も大きい。

表5 年次別、男女別、発育量の比較

区 分		男 子				女 子			
		5歳時 の体格	17歳時 の体格	総 発育量	年間発育量 最大の年齢	5歳時 の体格	17歳時 の体格	総 発育量	年間発育量 最大の年齢
身長 (cm)	昭和 47 年度生まれ	110.3	170.7	60.4	12歳時	109.4	158.7	49.3	10歳時
	57	111.1	171.5	60.4	12歳時	110.5	158.7	48.2	10歳時
	平成 4	110.9	171.3	60.4	11歳時	110.1	158.5	48.4	10歳時
	9	111.2	171.8	60.6	11歳時	110.3	157.9	47.6	9歳時
	14	111.4	171.4	60.0	11歳時	110.2	158.2	48.0	10歳時
体重 (kg)	昭和 47 年度生まれ	18.9	61.4	42.5	14歳時	18.4	52.6	34.2	11歳時
	57	19.2	63.5	44.3	11歳時	18.9	53.7	34.8	10歳時
	平成 4	19.1	63.3	44.2	11歳時	18.9	53.2	34.3	10歳時
	9	19.1	63.0	43.9	11歳時	18.7	52.3	33.6	11歳時
	14	19.2	64.2	45.0	11歳時	18.6	51.6	33.0	10歳時

- (注)1 総発育量とは、例えば、平成14年度生まれ(令和2年度17歳)の総発育量は、平成14年度生まれの「17歳時の体格」から「5歳時の体格」を引いたものである。
- 2 年間発育量とは、例えば、平成14年度生まれ(令和2年度17歳)の「5歳時」の年間発育量は、平成21年度調査6歳の者の体格から20年度調査5歳の者の体格を引いた数値である。
- 3 出生年度については、例えば、「平成14年度生まれ」とは、平成14年4月2日から翌年4月1日までに生まれた者をいう。

図4 年間発育量の30年前との比較



(注) 年間発育量とは、例えば、平成14年度生まれの「5歳時」の年間発育量は、平成21年度調査6歳の者の体格から20年度調査5歳の者の体格を引いたものである。

※本集計結果は、成長著しい時期において測定時期を異にしたデータを集計したものとなっており、参考までに比較の数値を掲載したが、単純比較することはできない。

Ⅱ 健康状態

1 疾病・異常の被患率等別状況(表6、別表3)

疾病・異常を被患率等別にみると、小学校、高等学校においては「むし歯(う歯)」の者の割合が最も多く、小学校では、次いで「裸眼視力1.0未満」の順となっている。

中学校においては、「裸眼視力1.0未満」が最も多く、次いで「むし歯(う歯)」の順となっている。

表6 主な疾病・異常被患率

順位	幼稚園		小学校		中学校		高等学校	
	区分	%	区分	%	区分	%	区分	%
1	裸眼視力1.0未満	27.5	むし歯(う歯)	37.4	裸眼視力1.0未満	66.7	むし歯(う歯)	44.4
2	その他の疾病・異常	3.9	裸眼視力1.0未満	37.1	むし歯(う歯)	33.2	蛋白検出	6.1
3	歯列・咬合	1.9	鼻・副鼻腔疾患	5.8	鼻・副鼻腔疾患	5.7	歯垢の状態	5.4
4	歯・口腔のその他の疾病・異常	1.5	歯・口腔のその他の疾病・異常	5.7	歯列・咬合	5.4	その他の疾病・異常	5.1
5	ぜん息	1.4	耳疾患	3.8	その他の疾病・異常	3.9	歯肉の状態	5.0

(注) 1「歯・口腔のその他の疾病・異常」とは、口角炎、口唇炎、口内炎、唇裂、口蓋裂、舌小帯異常、唾石、癒合歯、要注意乳歯等のある者である。

2「その他の疾病・異常」とは、この調査のいずれの調査項目にも該当しない疾病及び異常の者である。

2 主な疾病・異常等の推移(別表3・別表4)

(1) 栄養状態

令和2年度の栄養状態について「学校医から栄養不良又は肥満傾向で特に注意を要すると判定された者」の割合は、幼稚園が0.1%、小学校が0.5%、中学校が0.8%、高等学校が0.7%となっており、前年度と比べると、幼稚園及び小学校では減少しているが、中学校及び高等学校では増加している。

(2) 鼻・副鼻腔疾患

令和2年度の「鼻・副鼻腔疾患」(蓄のう症、アレルギー性鼻炎(花粉症等)等)の者の割合は、幼稚園が0.6%、小学校が5.8%、中学校が5.7%、高等学校が1.7%となっており、前年度と比べると、小学校、高等学校では減少しているが、中学校では増加している。

(3) 心電図異常(6歳、12歳及び15歳時のみ)

令和2年度の「心電図異常」の割合は、小学校(6歳)で3.1%、中学校(12歳)で3.5%、高等学校(15歳)で3.1%となっており、前年度と比べると、中学校、高等学校で減少しているが、小学校では増加している。

(4) ぜん息

令和2年度の「ぜん息」の者の割合は、幼稚園が1.4%、小学校が1.7%、中学校が1.6%、高等学校が1.4%となっており、前年度と比べると、幼稚園及び小学校では減少しているが、中学校及び高等学校では増加している。

(5) むし歯(う歯) (表7、表8、図5)

令和2年度の「むし歯」の者の割合(処置完了者を含む。以下同じ。)は、小学校が37.4%、中学校が33.2%、高等学校が44.4%で、前年度と比べると、小学校、中学校では減少しているが、高等学校では増加している。

令和2年度の被患率を10年前の平成22年度と比べると、小学校で23.9ポイント、中学校で22.5ポイント、高等学校で17.8ポイント低下している。

中学校1年生(12歳)のみを調査対象としている永久歯の1人当たりの平均むし歯等数(喪失歯及び処置歯数を含む)は0.8本で、前年度と比べると、0.1本低下している。

表7 むし歯(う歯)の者の割合の推移

単位: %

区 分	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
幼稚園											
計	X	38.2	35.9	32.4	28.1	23.0	29.4	26.4	30.1	31.7	X
処 置 完 了 者	X	12.7	13.2	8.9	11.4	6.8	9.4	7.2	9.0	11.8	X
未処置歯のある者	X	25.5	22.8	23.4	16.8	16.2	20.0	19.2	21.1	19.9	X
小学校											
計	61.3	62.9	57.5	54.1	51.9	48.2	49.0	45.3	48.5	42.1	37.4
処 置 完 了 者	26.3	27.0	25.4	23.8	22.0	21.2	21.8	20.5	20.7	19.7	15.3
未処置歯のある者	34.9	35.9	32.1	30.4	29.9	27.0	27.2	24.9	27.7	22.4	22.1
中学校											
計	55.7	58.5	52.8	52.4	49.6	44.9	43.2	41.0	42.0	36.0	33.2
処 置 完 了 者	30.0	32.2	28.0	27.3	26.8	23.6	25.5	23.8	23.6	21.8	19.9
未処置歯のある者	25.8	26.3	24.7	25.0	22.8	21.2	17.7	17.2	18.4	14.3	13.4
高等学校											
計	62.2	62.1	57.1	59.4	53.0	56.0	55.0	48.2	47.2	43.6	44.4
処 置 完 了 者	34.2	35.8	29.8	34.9	29.4	32.8	33.5	32.3	29.4	28.0	28.6
未処置歯のある者	28.0	26.3	27.3	24.5	23.6	23.2	21.5	15.9	17.8	15.7	15.8

(注)1 四捨五入の関係で項目計と内訳が一致しないことがある。

2 [X]は疾病・異常被患率等の標準誤差が5以上、受検者が100人(5歳は50人)未満又は回答校が1校以下のため統計数値を公表しない。

表8 12歳の永久歯の一人当たり平均むし歯(う歯)等数

(本)

区 分	平成2年度	平成12年度	平成22年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
計	3.10	1.70	1.70	1.1	1.0	0.9	0.9	0.8
喪失歯数	0.02	0.00	0.00	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
むし歯(う歯)								
計	3.08	1.70	1.70	1.1	1.0	0.9	0.8	0.8
処 置 歯 数	2.28	1.10	1.10	0.7	0.7	0.6	0.6	0.5
未処置歯数	0.80	0.60	0.60	0.3	0.3	0.4	0.3	0.3

(6) 裸眼視力 (表9、図6)

令和2年度の「裸眼視力1.0未満」の者の割合は、幼稚園が27.5%、小学校が37.1%、中学校が66.7%となっており、前年度と比較すると、小学校、中学校においては増加している。なお、高等学校の被患率は公表されていない。

また、令和2年度の被患率を10年前の平成22年度と比べると、小学校、中学校それぞれで5.4ポイント上昇している。

表9 裸眼視力1.0未満の者の割合の推移

単位: %

区 分	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
幼稚園											
計	X	X	X	X	X	X	X	12.9	X	X	27.5
1.0 未 満 0.7 以 上	X	X	X	X	X	X	X	11.2	X	X	22.8
0.7 未 満 0.3 以 上	X	X	X	X	X	X	X	1.7	X	X	4.1
0.3 未 満	X	X	X	X	X	X	X	-	X	X	0.5
小学校											
計	31.7	31.7	31.0	31.5	30.0	32.5	33.8	32.2	34.4	36.6	37.1
1.0 未 満 0.7 以 上	10.1	10.8	10.0	10.5	9.7	10.4	10.7	9.7	10.8	11.3	11.2
0.7 未 満 0.3 以 上	11.9	12.1	12.1	12.8	12.0	13.0	12.6	12.5	13.6	14.4	13.7
0.3 未 満	9.8	8.9	8.9	8.3	8.3	9.1	10.6	10.0	10.0	11.0	12.2
中学校											
計	61.3	60.7	56.5	58.6	58.9	58.1	60.9	61.6	59.7	59.7	66.7
1.0 未 満 0.7 以 上	11.5	11.0	8.0	10.2	10.2	9.9	9.8	8.5	8.8	9.6	9.8
0.7 未 満 0.3 以 上	19.9	18.4	16.6	18.1	19.7	16.2	21.6	18.3	19.2	18.2	21.7
0.3 未 満	29.9	31.2	31.8	30.4	29.0	31.9	29.4	34.9	31.7	31.9	35.2
高等学校											
計	X	74.4	X	X	71.7	65.8	70.0	71.7	70.9	X	X
1.0 未 満 0.7 以 上	X	9.4	X	X	7.9	7.0	9.2	10.8	7.5	X	X
0.7 未 満 0.3 以 上	X	12.9	X	X	13.6	14.2	18.2	19.0	14.0	X	X
0.3 未 満	X	52.1	X	X	50.2	44.5	42.7	41.9	49.3	X	X

(注)1 四捨五入の関係で項目計と内訳が一致しないことがある。

2 [X]は疾病・異常被患率等の標準誤差が5以上、受検者数が100人(5歳は50人)未満または回答校が1校以下のため統計数値を公表しない。

図5 むし歯(う歯)の者の割合の推移

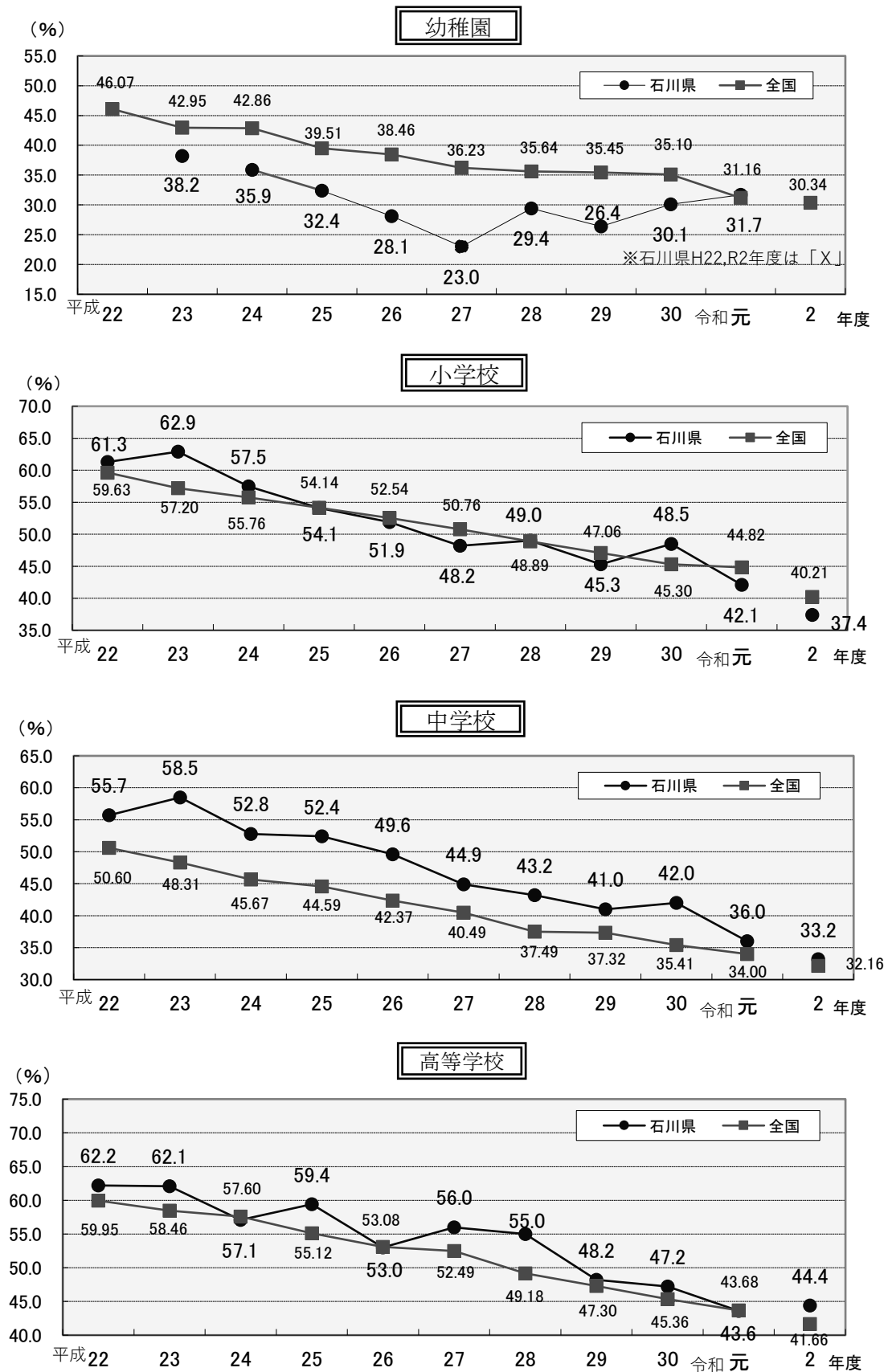
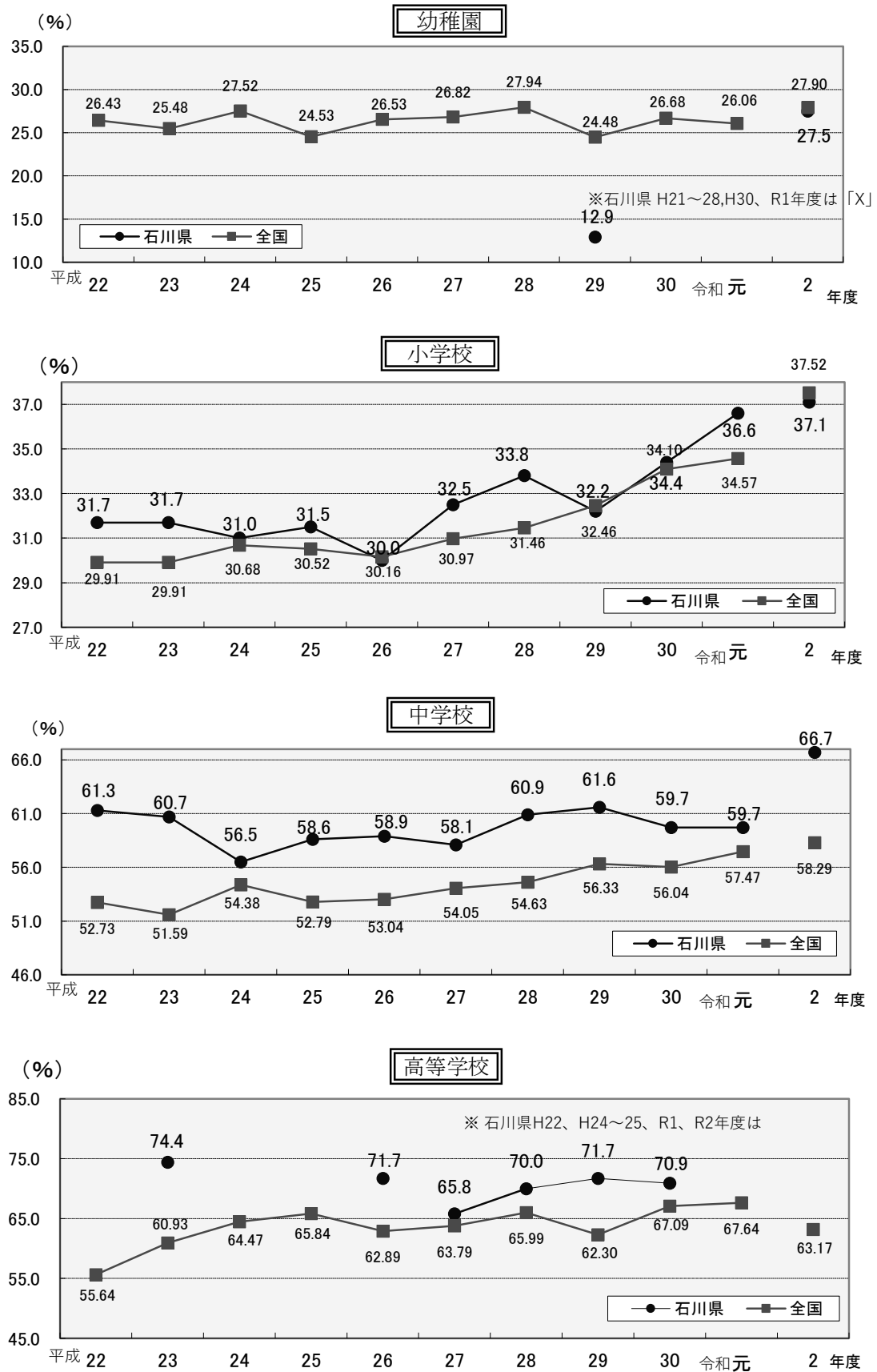


図6 裸眼視力1.0未満の者の推移



※令和2年度集計結果については、成長著しい時期において測定時期を異にしたデータを集計したのとなっており、参考までに比較の数値を掲載したが、単純比較することはできない。

Ⅲ 全国値との比較

1 発育状態

(1) 全国平均体格との差 (表10、図7、別表1)

① 身長

男子は、8歳、10歳、11歳を除く各年齢で全国平均値を上回っている。女子は、9歳、10歳、13歳で全国と同値、6歳、8歳を除く各年齢で全国を上回っている。

② 体重

男子は、9歳で全国平均値と同値、6歳から8歳及び10歳を除く各年齢で全国を上回っている。女子は、11歳で全国と同値、5歳、7歳、12歳及び14歳から16歳の各年齢で全国を上回って

表10 身長・体重の全国平均値との比較

区 分			身 長 (cm)			体 重 (kg)		
			石川県 A	全国 B	差 A-B	石川県 A	全国 B	差 A-B
男 子	幼稚園	5歳	112.6	111.6	1.0	19.6	19.4	0.2
		6歳	117.6	117.5	0.1	21.7	22.0	△ 0.3
	小学校	7歳	123.6	123.5	0.1	24.8	24.9	△ 0.1
		8歳	128.9	129.1	△ 0.2	27.8	28.4	△ 0.6
		9歳	134.7	134.5	0.2	32.0	32.0	0.0
		10歳	139.6	140.1	△ 0.5	35.0	35.9	△ 0.9
		11歳	146.1	146.6	△ 0.5	40.6	40.4	0.2
	中学校	12歳	155.1	154.3	0.8	46.0	45.8	0.2
		13歳	162.2	161.4	0.8	51.4	50.9	0.5
		14歳	166.6	166.1	0.5	55.9	55.2	0.7
	高等学校	15歳	169.7	168.8	0.9	59.6	58.9	0.7
		16歳	170.5	170.2	0.3	61.3	60.9	0.4
		17歳	171.4	170.7	0.7	64.2	62.6	1.6
女 子	幼稚園	5歳	111.5	110.6	0.9	19.2	19.0	0.2
		6歳	116.4	116.7	△ 0.3	21.2	21.5	△ 0.3
	小学校	7歳	123.3	122.6	0.7	24.4	24.3	0.1
		8歳	128.1	128.5	△ 0.4	27.1	27.4	△ 0.3
		9歳	134.8	134.8	0.0	30.9	31.1	△ 0.2
		10歳	141.5	141.5	0.0	35.1	35.4	△ 0.3
		11歳	148.5	148.0	0.5	40.3	40.3	0.0
	中学校	12歳	152.8	152.6	0.2	44.7	44.5	0.2
		13歳	155.2	155.2	0.0	47.5	47.9	△ 0.4
		14歳	157.1	156.7	0.4	50.3	50.2	0.1
	高等学校	15歳	157.6	157.3	0.3	51.4	51.2	0.2
		16歳	158.1	157.7	0.4	52.6	51.9	0.7
		17歳	158.2	157.9	0.3	51.6	52.3	△ 0.7

(2) 総発育量の全国平均値との比較 (表11、別表5)

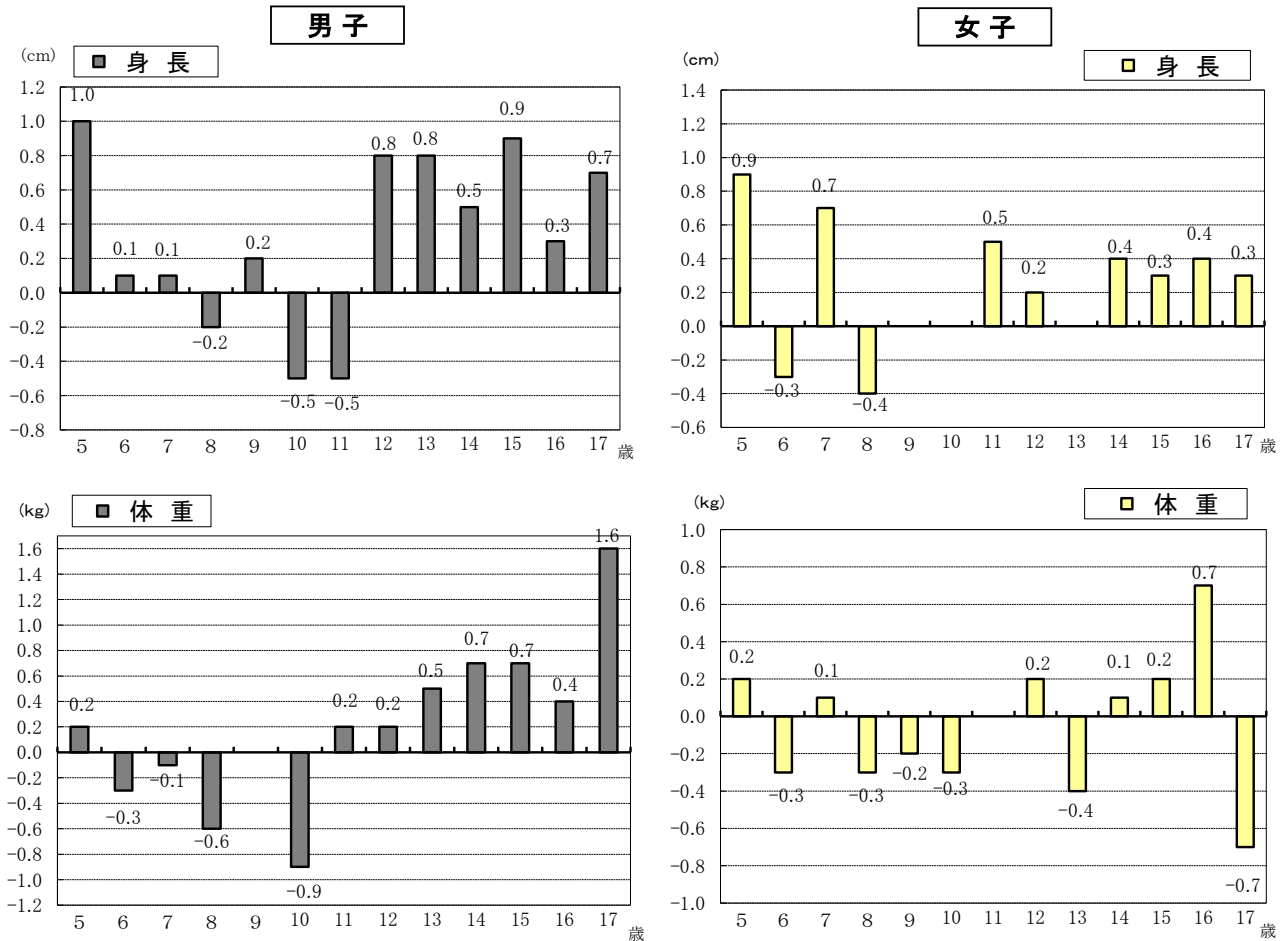
17歳(平成14年度生まれ)の総発育量を比較すると、男子は、身長は0.1cm全国平均値を上回っており、体重は1.5kg上回っている。女子は、身長は0.1cm全国平均値を下回っており、体重は0.7kg下回っている。

表11 総発育量の全国平均値との比較

区 分		男 子 (平成14年度生まれ)			女 子 (平成14年度生まれ)		
		5歳時の体格 A	17歳時の体格 B	総発育量 B-A	5歳時の体格 A	17歳時の体格 B	総発育量 B-A
身長 (cm)	石 川 県	111.4	171.4	60.0	110.2	158.2	48.0
	全 国	110.8	170.7	59.9	109.8	157.9	48.1
体重 (kg)	石 川 県	19.2	64.2	45.0	18.6	51.6	33.0
	全 国	19.1	62.6	43.5	18.6	52.3	33.7

図7 年齢別体格の全国平均値との差

(全国平均値 = 0.0)



(3) 17歳(高校3年生)の身長の全国平均値との比較 (図8、図9)

17歳の身長を全国平均値と比較すると、石川県は男子、女子ともに全国平均値を上回っている。

(4) 肥満傾向児の出現率の全国平均値との比較 (表12)

令和2年度の肥満傾向児の出現率は、男子では17歳の16.08%、女子では11歳の9.25%が最も高く、反対に男子では5歳の1.69%、女子でも5歳の2.44%が最も低い。

また、全国平均値と比較すると、男子は11歳、14歳から17歳において、女子は15歳、16歳において上回っている。

表12 肥満傾向児の出現率の全国平均値との比較

単位：%

区分		幼稚園	小学校						中学校			高等学校		
		5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳
計	石川県	2.06	3.92	5.94	7.68	9.57	9.74	11.58	8.06	9.13	9.25	10.50	10.57	11.15
	全国	3.51	5.51	8.03	10.31	11.50	11.91	11.38	10.84	10.40	9.64	9.72	9.09	10.08
男	石川県	1.69	4.28	6.34	7.89	10.63	11.64	13.91	8.60	11.51	12.53	12.80	12.74	16.08
	全国	3.65	5.85	8.77	11.67	13.58	14.24	13.31	12.71	12.18	10.94	12.07	11.54	12.48
女	石川県	2.44	3.54	5.52	7.47	8.43	7.77	9.25	7.51	6.69	5.88	8.15	8.28	5.96
	全国	3.37	5.16	7.25	8.89	9.32	9.47	9.36	8.89	8.53	8.29	7.30	6.59	7.63

(注) 肥満傾向児とは、性別・年齢別・身長別標準体重から肥満度を求め、肥満度が20%以上の者である。

肥満度 = (実測体重 - 身長別標準体重) / 身長別標準体重 × 100 (%)

(5) 痩身傾向児の出現率の全国平均値との比較 (表13)

令和2年度の痩身傾向児の出現率は男子では12歳、15歳、17歳の4.23%、女子では17歳の5.06%が最も高く、反対に、男子では5歳の0.19%、女子では7歳の0.57%が最も低い。

また、全国平均値と比べると、男子では12歳から14歳及び17歳、女子では5歳、10歳、11歳、13歳及び17歳で上回っている。

表13 痩身傾向児率の出現率の全国平均値との比較

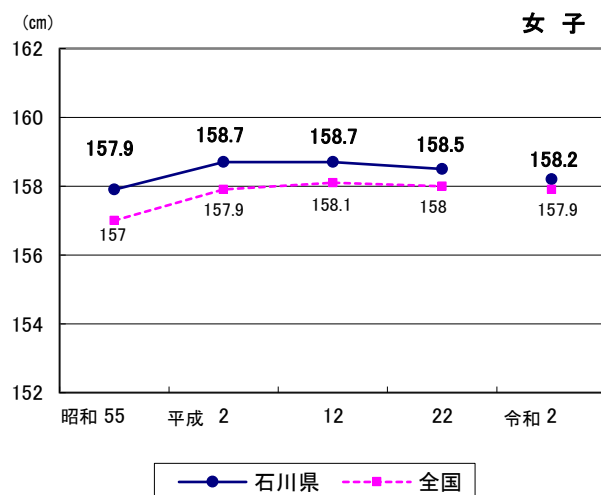
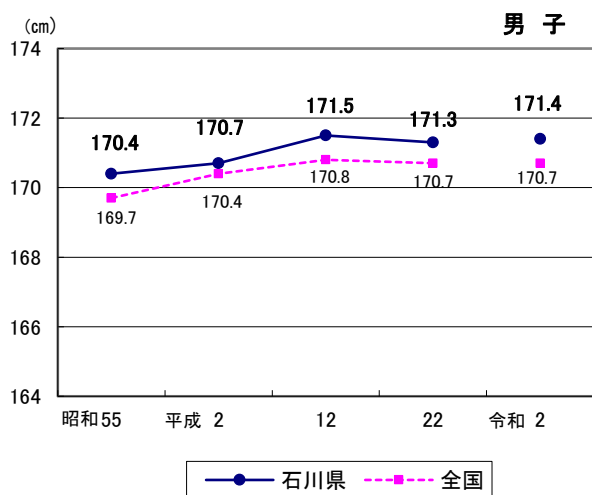
単位：％

区分	幼稚園		小学校					中学校			高等学校		
	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳
計													
石川県	0.96	0.49	0.41	0.83	1.67	2.94	3.14	3.98	3.30	2.66	2.94	3.29	4.63
全 国	0.44	0.52	0.64	1.03	2.08	2.76	3.16	4.00	3.09	3.02	3.69	3.66	3.20
男													
石川県	0.19	0.39	0.25	0.68	1.19	2.72	3.26	4.23	3.26	3.45	4.23	3.34	4.23
全 国	0.50	0.42	0.62	0.97	1.83	2.76	3.45	3.65	2.99	3.24	4.24	4.07	3.57
女													
石川県	1.73	0.60	0.57	0.99	2.17	3.17	3.02	3.73	3.34	1.84	1.62	3.24	5.06
全 国	0.38	0.63	0.65	1.09	2.35	2.76	2.87	4.37	3.20	2.79	3.13	3.24	2.82

(注) 痩身傾向児とは、性別・年齢別・身長別標準体重から肥満度を求め、肥満度が－20%以下の者である。
 肥満度＝(実測体重－身長別標準体重)／身長別標準体重×100(%)

図8 17歳男女平均値の推移

身長



体重

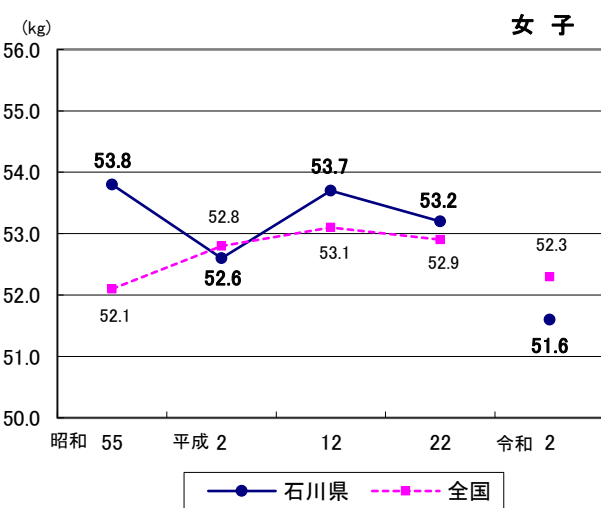
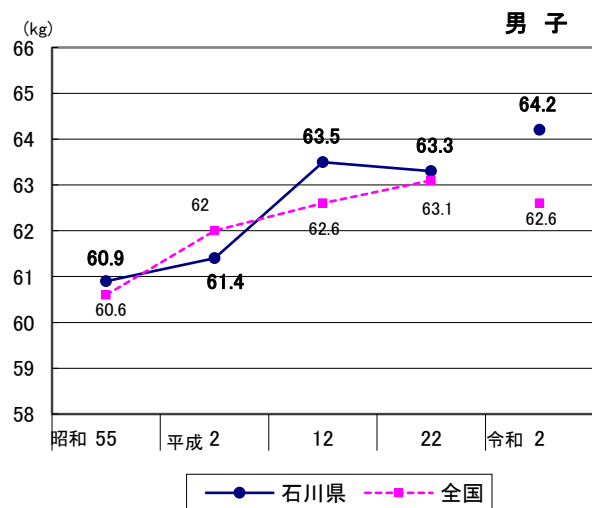
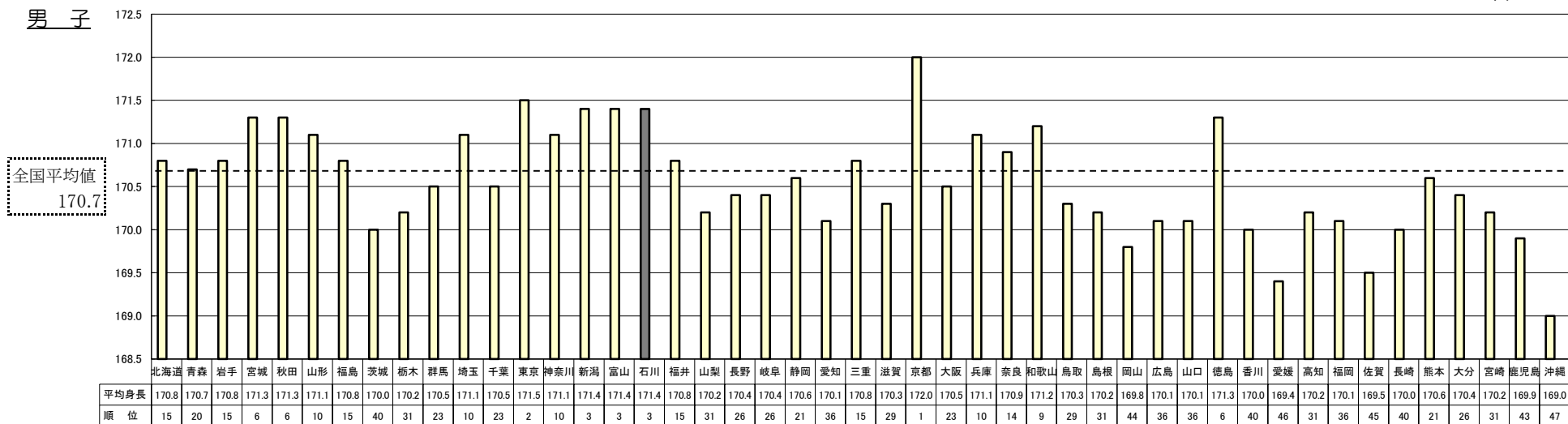


図9 都道府県別17歳の平均身長

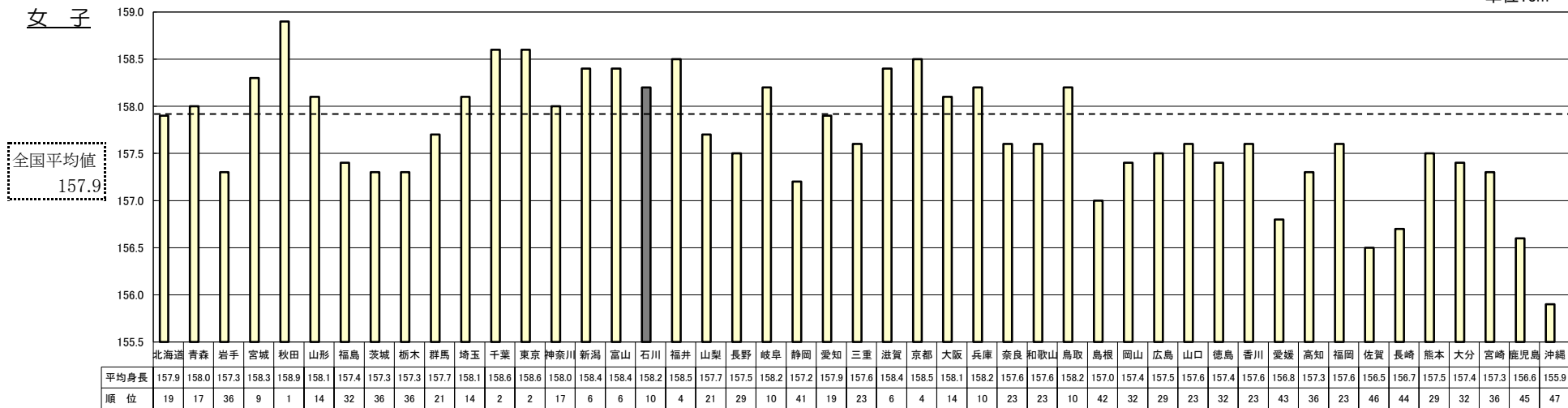
単位:cm

男 子



女 子

単位:cm



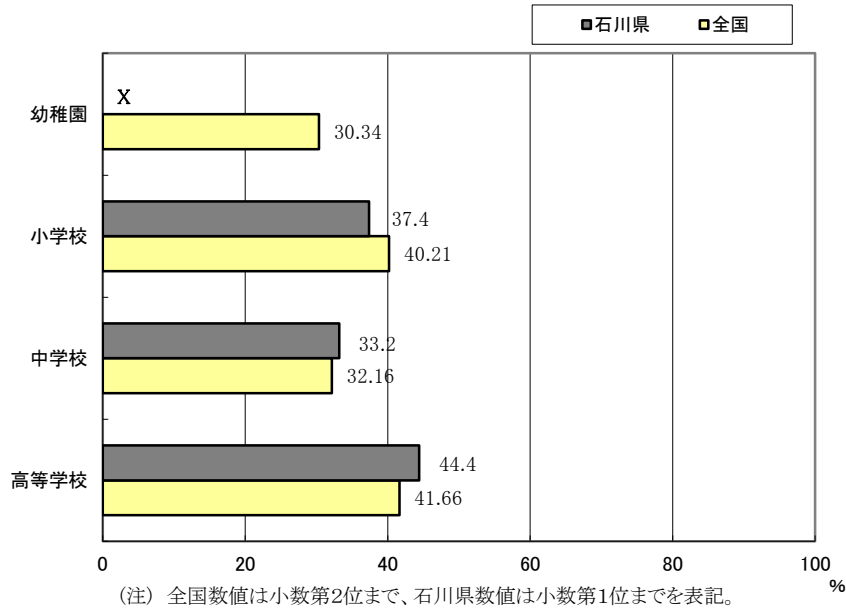
2 健康状態

○ 主な疾病・異常等の全国平均値との比較(図10・11、別表3参照)

(1) むし歯(う歯)の者の割合の全国平均値との比較

むし歯(う歯)の者の割合は、中学校では1.04ポイント、高等学校では2.74ポイント全国平均値をそれぞれ上回っているが、小学校では2.81ポイント全国平均値を下回っている。

図10 むし歯(う歯)の者の割合(全国平均値との比較)



(2) 裸眼視力1.0未満の者の割合の全国平均値との比較

裸眼視力1.0未満の者の割合は、幼稚園で0.4ポイント、小学校で0.42ポイント全国平均値をそれぞれ下回っているが、中学校では8.41ポイント全国平均値を上回っている。

図11 裸眼視力1.0未満の者の割合(全国平均値との比較)

